

身体健全・無病健脚の御祈願

仁王の股くぐり

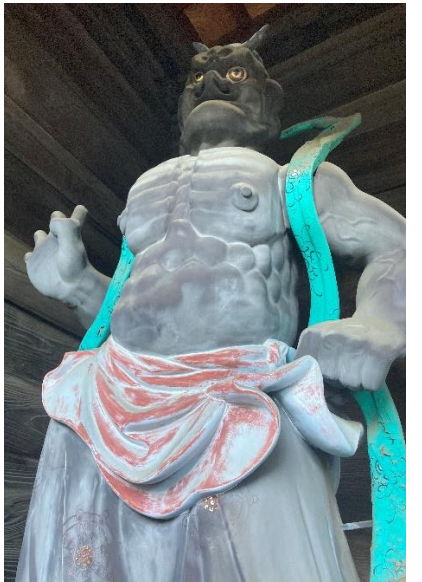
一月八日・五月八日の大護摩修行後に開催

すべての方にご参加頂けますが、実際に股の下をくぐるのは、小学校低学年程度のお子様までとさせて頂きます。それ以上の方は、普段身に着けるものを股の下の通して頂き、身体健全、無病健脚を御祈願ください。

仁王さまってなに？

仁王さま(本来は「二王」が正しいようですが...)は、金剛力士や執金剛とも言われ、四天王とともに仏教の守護神として知られています。

一般的に、筋骨隆々、憤怒形(怖い顔)という造形で作られ、口を開けて金剛杵を持った阿形と、口を閉じて手を広げた吽形という対の形で安置されます。



また、仁王さまの口の開閉にも意味があり、阿形(あ)はすべての始まり、根源を表し、吽形(ん)は全ての終わりを表しています。つまり、阿吽の二文字に全て帰結するという意味となります。ちなみに、よく仲の良い二人の行動を「阿吽の呼吸」と言いますが、まさにこの仁王さまの阿形・吽形の二体から取られた言葉です。

さて、仁王さまが寺院の門に祀られる理由をご存じでしょうか。仁王さまは仏教を守護することを誓願として立てた神様なのです。そのため、寺院の境内への入り口の門に仁王さまが祀られるのは、魔(悪いもの)が境内地に入るのを防ぐために配されるのです。悪いものたちも、怖い顔、筋骨隆々な姿の神様が入口に居たら、恐ろしく入りたくないですね。

仁王さまの徳

ようやく股くぐりの話に移りますが、先ほど触れたように、筋骨隆々のお姿をしていることから、仁王さまに対して、身体健全や健脚を祈願していたと

いう風習が全国各地に残っています。特に、「はしか」で幼子を亡くすことが多かった時代には、お薬師さまとともに、仁王さまに祈願したようです。また、旅人が寺院へ参拝した際には、筋骨隆々な仁王さまにあやかっ、ケガ無く旅が続けられるように「わらじ」を奉納して健脚祈願することも多くあったそうです(仁王さまの安置される寺院は、参拝者の多い宿場町の近隣に多い影響があると言えます)。



そのような仁王さまの力を皆さまにも授かって頂くために、縁日とされる8日に併せて「仁王さまの股くぐり」を行います。8日は、仁王さまというよりも、お薬師さまの縁日のイメージが強いです。どちらも健康を司る神仏であります。お薬師さまの大護摩修行から引き続き股くぐりにもご参列ください。





令和6年の股くぐり開催予定

1月8日大護摩後

5月8日大護摩後

小学校低学年までは実際にくぐって頂けませんが、
大人の方は身に着けるものを仁王さまの股下に通し
て頂きます。